

突然の運休発表！神戸便 継続へ 基地に柔軟運用 求める 10月再開、さらに来年3月までに札幌・名古屋へ



茨城～神戸便は、4月16日の就航以降、唯一の国内定期便として大きな期待を受け、4・5月の搭乗率も7割超と好調に推移(6月:68.2%)し、今後の便数・路線数拡大も期待されていました。

しかし、6月24日、同路線を運航するスカイマーク社は、基地との共用空港として運用規制を強いられることにより、今後の利用拡大が厳しいことなどを理由として、9月から運休することを発表しました。この突然の運休発表を受けて、6月30日、市長、市空港利用促進協議会長、議長の連名により、運航継続に向けた調整が図られるよう百里基地に対し要望書を提出しました。

そして、7月20日、スカイマーク社は、国・県との調整により運航に関する問題が解決されたとして、10月1日から神戸便の運航再開を表明し、さらに、来年3月までには新千歳空港(北海道)、中部国際空港(愛知県)間の定期便を就航すると発表しました。

～要望書の要旨～

今回の神戸便の運休表明により、空港を通じた地域振興は大きく後退することが懸念され、運航継続を望む地元住民の声は非常に強いものがあります。今後、茨城空港の運用に関しては、利用者の利便性を図るため、航空会社との調整に際し、民間航空機の計画的な運行を確保するよう特段の配慮を求めます。



7月2日、百里基地対策委員会(委員長:中村 強)が中心となり北関東防衛局を訪問。引き続き、基地の運用改善、周辺対策の拡充を求め陳情を行いました(北関東防衛局)

編集後記

梅雨空のもと行われた熱き戦い、前回(第21回参議院議員通常選挙)の3年前と同様、政権党が敗北する「ねじれ現象」再来で幕を閉じましたが、市の投票率の低さに改めて危惧を感じます。全国平均が58%だったのに対して、茨城県はよっとの55%、市はさらに低い52%台という状況でした。

県内で同時に行われた市議選の投票率は70%を超えましたが、いずれも議員定数を減らしての戦いでした。小美玉市議会でも定数等を検討する委員会を立ち上げ、来年11月の合併後2回目の選挙に向け動き始めます。

多くの市民に関心を持っていただくため、この議会広報がしっかり読まれ、投票率アップを期待したい。そのために議員の役割をしっかりと果たしていかなければと、広報部員一同、気を引き締めて頑張りたいと思います。

(文・福島)

発行編集責任者

議長 野村 武勝

議会広報委員会

委員長 藤井 敏生

副委員長 小川 賢治

委員 山口 良元

福島 やまもと

山本 信子

岩本 好夫

中村 強